ふるさとへの思いと絆をつなぐ広報誌

平成27年9月20日発行（毎月1回20日発行）

ふるさとだより

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来

2015年 September 9 NO.52

Pick up 受け継がれる、各地の伝統行事

勿来

関田地区の子どもたちで結成される「勿来子どもじゃんがら隊」。現在は15名が活動しており、市内でも珍しい女子のみのじゃんがら隊です。今年も夏に向け、6月末から練習を開始。新盆まわりや各地の盆踊りに出向き、霊を慰めました。

久之浜大久

新しい祭りと伝統の祭り
夏休みの思い出

四倉

郷土芸能の担い手たち
過ぎゆく夏を惜しんで

平

ふるさとの伝統
5年ぶりの交流会

小名浜

住民が行う江名獅子祭
公民館で防災キャンプ

ふるさとだよりの記事が動画で!!

マークのある記事にスマホやタブレットをかざすと動画が見られます!(見方はP11)

「ただいま」と「おかえり」が出会う時

2回目の祭りと伝統の祭り

花火大会と盆踊りが50年ぶりの同時開催となった昨年の第1回浜の夏祭り。今年も地元の若者が準備を進めてきました。そして迎えた8月11日午後1時、吉田康男実行委員長が開会を宣言。ステージイベントのトップバッター「花音」の岡崎奈津美さんの歌声が故郷の空に響きます。「アイくるガールズ」や静岡の民芸集団など、地区内外からの出演者が祭りを盛り上げ、そして午後7時。東京神宮外苑、岩手、宮城、久之浜の空にライトアップニッポンの鎮魂の花火が全国同時に上がりました。続いて片寄清次さんと遠藤知子さんの歌にあわせて盆踊り大会。その後、再び千発を超える打ち上げ花火が夜空を焦がしました。

虫の鳴き声が多く聞こえるようになってきた8月22日。筒木原滝不動大祭典の宵祭り盆踊り大会が開かれました。浜の夏祭り実行委員会の面々も駆けつけ、祭りを大いに盛り上げました。ふるさと久之浜・大久の復興と住民交流の場の提供、そして新たな伝統づくりと伝統の継承へ向けた若者たちの挑戦。多くの人が集い、一緒に踊り、そして同じ夜空を見上げた夏が終わりました。

10組の出演者がステージイベントで祭りを盛り上げました

地元の催しには欠かせない「海神乱舞（わだつみらんぶ）」（上）と「黒潮流みつもり太鼓」（下）

鎮魂と復興への思いと共に今年も上がった1000発の花火

久之浜中吹奏楽部の夏

久之浜中伝統の吹奏楽部。草野順子先生の指導の下、日々練習を重ねました。今年の吹奏楽コンクールで演奏する曲は「百年祭」。「吹奏楽部に入って、皆と練習を重ねた毎日を思い出しながら吹いています」とクラリネット担当の鈴木美郁（みく）部長。7月19日のいわき支部大会で金賞を受賞。8月8日、県大会出場を果たしました。8月22日には、エブリアで演奏会が開かれ、明るく楽しい演奏を聞かせてくれました。

津波避難場所ガイド

●久之浜中学校校庭
●住所／久之浜町久之浜字大場69
●面積／21,850㎡
●海抜／41.6m

復興へ向けた動き

末続防災集団移転団地と津波被災地の今

津波により大きな被害を受けた末続地区。新たに造成された防災集団移転先の団地では2軒が新築され、今月新たな工事が始まる予定です。海岸近くでは、堤防や末続橋の架け替え工事が進行中。津波被災跡地の利活用に向けた検討も進められています。

昨年に続いて快挙 キッズデザイン賞

先月号でお伝えした、久之浜関連で4点が受賞した、キッズデザイン賞復興支援デザイン部門。同部門の上位賞となるキッズデザイン協議会会長賞（奨励賞）を「ひさのはま夢あかり2015」（4月発行47号掲載）が受賞。明かりを通じたまちづくり、久之浜一小児童も総合学習で提案した避難誘導、防犯や治安にも資する試みが評価されました。

3月に実施された「ひさのはま夢あかり2015」電球色の温かな灯りが誘導路を照らしました

園児たちが巨大絵画に挑戦

ピカソの代表作「ゲルニカ」にちなんで、子どもたちが描いた平和の絵を展示するアートイベント「キッズ・ゲルニカ」が広島で開催されました。

8月4日、平および久之浜第一幼稚園さくら組の園児35名が巨大絵画に挑戦。田人在住の美術家山本伸樹さんの指導で、広島の子どもたちが描いた空、山や海の下絵に、園児たちは手の平で思い思いの色を重ねていきました。できあがった園児たちの力作は8月26日から広島平和記念公園で展示されました。

縦2m、横10mの大きな作品に園児たちは大奮闘

CHECK! 動画が見られます!

思い出の夏　鎮魂の夏　久之浜・大久

楽しく学ぶ防災知識

7月28、29日大久公民館で開かれた「レッドベアいわき防災キャンプ」。四倉、小川、川前そして久之浜・大久地区から小学生40名が参加。放水訓練、毛布を使った担架競争などを行い、楽しく防災に役立つ知識を学びました。

CHECK! 動画が見られます!

1泊2日のキャンプで防災に役立つ知識を学んだ児童たち

第50回合同供養祭

地区内の僧侶が一同に会し、新たな物故者、戦没者、海難被害者、そして東日本大震災犠牲者などに鎮魂の祈りが捧げられました。式典終了後久之浜・大久自安我（じゃんがら）楽継承会によるじゃんがら奉納も行われました。

掘り出せアンモナイト

この夏も多くの人で賑わいを見せたアンモナイトセンター。7月30日には福島県教育研究会の理科臨地研修会。8月1日には久之浜・大久地区ジュニアリーダーキャンプの一行が体験発掘を行い、太古のロマンに触れました。

CHECK! 動画が見られます!

アンモナイトの一部やサメの歯の化石出土に大歓声

受け継がれる伝統　郷土芸能の担い手たち

本町青年義団の笠踊り

約15名の団員が花笠や唐傘を使って、御詠歌に合わせて踊る和讃（わさん）や、八木節などを受け継いでいて、毎年お盆の時期になると、四倉町内を中心に新盆の家々を回って供養の踊りを披露します。

ベテランの団員に混じって、社会人、大学生、高校生の若手メンバー4名も、先輩の指導を受けながら熱心に練習に励んでいます。中には、父親が義団の現役団員で、親子二代で踊っている若者もいるそうです。

若い世代の担い手や後継者不足、現役メンバーの高齢化に悩む郷土芸能も多いだけに、この4名の10代の若者たちには大きな期待が寄せられています。

8月7日夜には北辰妙見尊で踊りを奉納しました

高倉郁也団長（前列左から2番目）と団員のみなさん

8月13日、新盆の海嶽寺で供養の笠踊りを披露

消防団の屯所で練習する若手団員

下仁井田諏訪神社の三匹獅子舞

8月22日に同神社境内で行われた4年に一度の大祭典で、伝統の三匹獅子舞が披露されました。

江戸時代の寛永11年（1634年）から続くこの三匹獅子舞。今回は雄獅子の根本丈瑠（たける）君（四倉中2年）、中獅子の根本誠那（せいな）君（大浦小5年）、雌獅子の鈴木颯太（そうた）君（同小4年）が、獅子舞保存会のメンバーらの指導を受けて、「前とび」「岡崎」などの演目ごとに手の配り、足の運びなどを練習しました。

大祭典当日、獅子舞は境内での奉納に続いて、鍵持ち、獅子舞保存会長、踊りの師匠、笛の師匠などの家を回り、伝統の舞を披露しました。

当日は、力強い獅子舞が披露されました

CHECK! 動画が見られます!

左から雄獅子、中獅子、雌獅子の3人

獅子舞にはおかめ、ひょっとこ、トウロクなども登場

練習では大人に合わせて動きを覚えました

3周年を迎えた道の駅

「夏休みこどもまつり」が8月8、9日に開かれ、よさこいやフラダンスが披露されたほか、ふくまるにはドラえもんなどの人気キャラクターが登場しました。

地元四倉の「美舞蝶組（あげはぐみ）」も力強い演舞でイベントを盛り上げました

大きな力士に大興奮

三宝保育園の新園舎完成を記念して、8月5日、大相撲荒汐部屋から福島県出身の力士ら4名が来園して、園児ともちつきや相撲をして交流を深めました。

元気いっぱいに力士に向かっていく園児たち

CHECK! 動画が見られます!

海岸の環境美化に貢献

四倉地区保健委員会（公平和俊会長）は、平成27年「海の日」海事関係功労者大臣表彰で、「海をきれいにするための一般協力者」として、国土交通大臣から表彰されました。

長年、四倉海岸で清掃活動を続け、環境美化に努める保健委員会

復興へ向けた動き

写真で見る四倉の復興

四倉地区の沿岸地域で行われている、主な工事の様子を紹介します（写真は8月29日現在）

道の駅よつくら港前では、漁港内堤防の工事が進みます

架け替え準備工事が進む仁井田川の東舞子橋

既存堤防の前に新堤防を整備中の仁井田地区海岸

夜空を彩る3千発の花火

8月16日、「四倉鎮魂、復興花火大会」が四倉海岸で開かれ、大勢の来場者が詰めかけました。

花火の打ち上げに先立ち、上仁井田子どもじゃんがら念仏踊りなどのアトラクションのほか、来場者らが黙祷を奉げ、読経による供養が行われました。

四倉ピックアップ　過ぎゆく夏を惜しんで…。

櫓の下で踊る参加者(8月22日)

CHECK! 動画が見られます!

思い思いに仮装して

下仁井田諏訪神社で青年会による仮装盆踊り大会が開かれ、さまざまなキャラクターに扮した踊り手が登場。青年会の笠踊りも披露されました。

夕方からの盆踊り大会も盛況でした(8月2日)

にぎわう仲町商店街

「第24歩仲町ホコ天ブラブラリー」が開かれ、会場にはさまざまな出店が並び、フリースローゲームや竹筒水鉄砲コーナーも人気を集めました。

カレーライスやスイカなどを堪能する生徒たち(8月23日)

道の駅で親睦深める

いわきアリオスで行われた「第5回フラガールズ甲子園」に出場した約300名の生徒たちの交流会が、道の駅よつくら港で開かれました。

ピアノの音色と歌声に聴き入る来場者(8月6日)

集会所に響くピアノ

四倉南団地の集会所で市社協主催のピアノコンサートが開かれ、愛媛県から訪れたボランティア5名がピアノの演奏などを披露しました。

焼き鳥、焼きそばなどの出店も人気でした(8月23日)

カラオケで熱唱

上仁井田諏訪神社の夏祭りではカラオケ大会や抽選会などがあり、来場者は出店で買い物をしながら、過ぎゆく夏を惜しんでいました。

歌で入所者を元気づける岬花江さん(8月22日)

歌あり踊りあり

楽寿荘の夏祭りでは、じゃんがら念仏踊りや、よさこいなどが披露されたほか、会場には多くの出店が軒を連ねて、来場者でにぎわいました。

ふるさとの伝統「獅子祭り」

沼ノ内「子ども獅子祭典」

本誌51号でも練習風景を紹介した「子ども獅子舞」は、沼ノ内地区に約360年続く伝統芸能です。

今年は舞手の代替わりは無く、大獅子・鈴木太陽くん(中2)、中獅子・有働凜太郎くん(中1)、雌獅子・永山裕大くん(小6)が2年目の少したくましくなった獅子の舞いを各所で披露しました。

今年最後の舞い。暑さにも負けず踊りきりました

CHECK! 動画が見られます!

豊間諏訪神社例大祭「獅子祭り」

豊間地区にも約360年続く伝統芸能の「獅子祭り」がありますが、こちらの獅子は大人が舞う勇壮な獅子舞です。22日は宵祭り、23日は本祭りを行い、諏訪神社境内から豊間団地、とよマルシェ、地域企業を回り宮司宅で披露しました。町が繁栄していた最盛期には約50軒を回ったそうです。

宵祭り。境内の薄明かりの中、勇壮に幻想的に舞う

CHECK! 動画が見られます!

「熊川稚児鹿舞」

大熊町に約250年前から伝わる獅子舞。原発事故により、住民がバラバラになり存続が危ぶまれましたが、多くの支援を受け、今回、沼ノ内の諏訪神社境内で奉納できました。

避難先がバラバラで練習にも苦労したそうですが、立派に踊りきりました

初めて団地内で奉納しました。練習も集会所で行いました

5年ぶりの「いわき交流会」西会津と25年の絆

震災前は夏にいわき、冬は西会津で行っていた豊間小と西会津の交流会。(本誌3月号では「西会津交流会」を紹介しました)震災後の整備等でいわきでの実施は見送られ、会津で続けてきましたが、8月7、8日に5年ぶりとなる「いわき交流会」が再開しました。町の復興工事は進んできましたが、子どもたちを遊ばせる環境が学校周辺にはないことから、久之浜の〈いわき海浜自然の家〉を会場とし、オリエンテーリングや館内活動、キャンプファイヤーなどで互いに交流を深め合いました。2日目はバスで薄磯地区へ。豊間小学校で下車して学校の周りを案内した後、アクアマリンへ移動し、館内を見学しました。昼食後の別れの会で2日間の思いを発表し合い、西会津での再会を誓いました。

豊間小学校で西会津の友だちに学校を案内する児童たち

来年1月に行われる西会津交流会での再会を誓いました

初めての野外活動ではまだぎこちない面もありました

キャンプファイヤーでは火を灯、友情を深め合いました

復興へ向けた動き

二見ヶ浦最後の宿閉館へ

豊間合磯で営業を続けてきた「玉家新館」が22日の宿泊客を最後に閉館しました。

玉家新館のオープンは約10年前。兎渡路で本館を経営している田辺玉美女将が「囲炉裏を囲みながらゆっくり料理を楽しめて、のびのびと過ごしてもらいたい」と建てた別館でした。

海岸近くにある建物は、津波被害に遭うも、ガラスが4枚割れただけで建物は残りました。スタッフがボランティアとともに、一生懸命がれきの片付けをしている様子を見て再開を女将が決意。4月下旬にオープンさせましたが、町の復興事業に伴い、残念ながら玉家新館は営業を終えることに。

本館勤務を経て新館の業務全般を担っていた関テツ子さんも「常連が多い宿で、たくさんの笑顔が見れなくなるのはとても寂しい」と話していました。

囲炉裏のある宿としても人気があった玉家

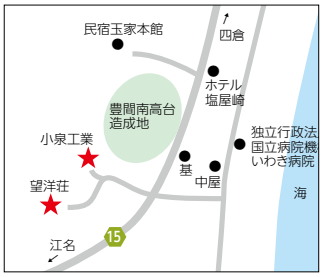
「食事やスタッフの人柄雰囲気が良かった」とお客さんが話していました

女将さん（右端）とこの宿を見守り続けた関さんとお孫さん

津波避難場所ガイド

小泉工業

- 住所／平豊間字合磯19-2
- 面積/119㎡
- 海抜/27.6m



望洋荘

- 住所／平豊間字合磯39
- 面積/923㎡
- 海抜/40.4m

平地区ピックアップ

豊間団地で復興夏祭り

8月30日、豊間団地集会所広場で豊間団地管理会主催、豊間区共催の「豊間復興夏祭り」が行われ、団地住民や地域住民ら約800名が来場し、団地内外の交流を楽しみました。

豊間中の琴演奏、ほかイベント、模擬店等で賑わいました

とよマルシェでイベント

8月8日〈とよマルシェ〉でサマーイベントが行われました。ビンゴゲームや好間高校のフラダンスチーム「ウィラニ　オーラパ」によるフラダンスが披露され、会場に華を添えました。

サマーイベントを盛り上げた「ウイラニ　オーラパ」

CHECK! 動画が見られます！

追悼のじゃんがら

8月13日、薄磯の〈修徳院〉で高久の馬場青年会による「じゃんがら」が奉納されました。墓参りに訪れた人たちに見守られながら、太鼓や鉦（かね）の音が、復興が進む町に響いていました。

「じゃんがらに見入る」墓参りに訪れた人たち

小名浜 元気めぐり
江名獅子祭を継ぐ

江名諏訪神社文化伝統保存会

江名獅子祭を地元の人で行おうと「江名諏訪神社文化伝統保存会」が設立され、3年目。

今年の獅子舞メンバーは以下の通り。

【6年】柴﨑有優さん・金成柚羽さん・黒川遥菜さん・早川彩音さん・堀口伶王くん

【5年】吉田直矢くん・堀口陽翔くん・坂本七海さん・佐藤千里さん

【4年】吉田圭太くん・金成実桜さん　計11名。

人数も増え、「みんなが感動する舞を踊りたい」と、真剣な姿で練習に励む子どもたち。今年は「おかざき」や「おばこ」のほか、「三匹ちらし」という新たな舞も教わり、一層張り切っていました。

昨年、獅子舞を踊った中学1年生の鈴木美咲さんと山野辺千尋さんは篠笛を担当。美咲さんは子どもたちの練習を見守りました。また、江名在住の岩本京子さん、梅川栄子さんも篠笛担当として新たに加わり、祭に向けて子どもたちと息を合わせ演奏していました。

8月29日は宵祭り、30日には本祭りが行われ、神社境内や江名魚市場など計16ヵ所で踊りを披露。音を聞きつけ多くの住民が見物に来ていました。新たな舞や篠笛を披露し、逞しく成長した子どもたち。これからも獅子祭の伝統を受け継いでいくことでしょう。

▶みなとの家で見物者と写真撮影する江名諏訪神社文化伝統保存会

◀根渡神社の下で海を背にしておばこを披露

レッドベアいわき防災キャンプ in 小名浜

震災時はまだ小さかった児童たち。当時の話を真剣に聞いていました

8月8日、9日、江名公民館で「レッドベアいわき防災キャンプin小名浜」が行われました。参加者は小名浜在住の4、5、6年生32名。かつては江名在住だった坂本節子さんから震災当時の話を聞いた後、バケツリレーや毛布担架の実践、紙食器作りなど行い、防災の知識を学びました。

2日目は1日目に学んだ防災の知識や技を班対抗のゲーム形式でおさらいし、防災力を高めていました。

防災倉庫の中身を見学

段ボール間仕切り作り

復興へ向けた動き

下神白ウニの試験操業と貝焼き

8月6日、下神白採鮑組合が震災後初めてのウニ漁の試験操業を行い、キタムラサキウニ11kgを水揚げしました。

その後、県水産会館にて下神白在住の馬目和子さん、高津靖子さん、山倉怜奈さん、江名在住の金田牧子さんにより、ウニの貝焼き作りが行われました。できあがった貝焼きのうちの36個は、いわき仲買組合に引き渡されました。

なお、来シーズンはいわき近海で水揚げし、今年の秋に完成する下神白加工場で貝焼きを作る予定です。

「懐かしい」と、慣れた手つきで作業をしていました

ふっくら美味しそうなウニの貝焼きができあがりました

中之作海岸堤防陸閘（りくこう）工事着手

県は海岸堤防整備の一環として、津波警報等が発令されると自動で閉門する陸閘3基の工事に6月から着手しています。港の利用に支障がないよう出入口を確保しながら施工し、今年度末に完成予定。

現在、整備中の陸閘工事の様子

津波避難場所ガイド

●中田山

●住所／江名風越118−3
●面積　671㎡
●海抜　43.8m

●小名浜東小学校校庭

●住所／小名浜諏訪町37−1
●面積　7,350㎡
●海抜　7.3m

小名浜ピックアップ

人で溢れる中之作

メヒカリの試食をする買い物客

8月8日、中之作魚市場で第7回中之作朝市が行われました。開始早々大勢の来場者が訪れ、鮮魚や加工品を買い求めていました。

みんなで盆踊り

さまざまな仮装をして踊る住民たち

8月15日、江名港で盆踊り大会が行われました。御詠歌の奉納や歌謡ショー、大道芸のあと、地域住民が櫓を囲んで踊りました。

集まり遊べる機会を

ヨーヨーすくいを楽しむ子どもたち

8月23日、永崎集会所で交流会が行われました。孫の手ぐんまと渋谷組二輪会の方がマッサージやプチ縁日を開き、地域住人は楽しみました。

吹奏楽と歌のコンサート

江名中学校吹奏楽部と「宝島」を合奏

8月23日、江名公民館で所沢西高校吹奏楽部による吹奏楽コンサートが行われました。約200名の住民が演奏に聞き入っていました。

キャプテンは中学3年の荒川未羽（みう）さん（列中央右から2番目）。衣装の着付けには、近所の方が協力しています

CHECK! 動画が見られます！

いわきの貴重な伝統芸能
じゃんがらを受け継ぐ子どもたち

勿来町関田地区を中心に結成される「勿来子どもじゃんがら隊」。隊員は小学生から高校生までの女子のみで、現在15名が矢長雅紀隊長の指導のもと活動しています。

同隊は平成20年に結成。毎年、田人地区からじゃんがらを呼んでいましたが、地元の子どもたちでできないかと思ったのがきっかけでした。当初は男子も1人いましたが、唯一の男子が脱隊してからは女子のみとなり、今年で8年目を迎えます。

主な活動は、新盆まわりはもちろん、盆踊りや〈関の湯〉での披露、また震災の翌年には追悼行事にも参加しました。

震災では矢長隊長の自宅にも津波が到達。幸い大きな被害にはなりませんでしたが、消防団にも入団しているため、約1週間は家に帰らず救援活動に尽力していたそうです。隊員にも被害を受けた子がいましたが、震災の年も例年どおり練習を開始し活動を続けました。

「いわきが誇る伝統芸能。勿来地区では唯一なので、できる限り続けていきたい」と矢長隊長。今年は新たに7名が入隊。ふるさとの伝統を絶やさぬよう、次の世代へと受け継がれていきます。

四沢盆踊りでの様子。このほか植田の盆踊りにも参加しました

8月15、16日には〈関の湯〉でも披露。客席から拍手が沸き上がりました

今年は6月末から、毎週日曜に関田集会所で練習を重ねました

フォトギャラリー

錦町御宝殿　熊野神社の祭礼

今年も7月31日と8月1日の2日間に渡って実施。昼には、大倉保育園と錦星こども園の子どもたちによるソーラン節と和太鼓演奏も行われ、年に1度の祭りを盛り上げました。

「鉾立神事」では、五穀豊穣を意味する「兎の鉾」が先に立ちました

白鷺、青龍、雌雄鹿、大獅子による「風流」

昨年は雨天で中止となった「早馬疾走」も実施

精進潔斎を行った「勅使童児（ちょくしどうじ）」の赤津翔太くん

稚児の子どもたちによる「稚児田楽（ちごでんがく）」

CHECK! 動画が見られます！

復興へ向けた動き

小浜・岩間地区 復興グランドデザイン策定

平成26年1月から、13回にわたる検討会議により「小浜・岩間地区復興グランドデザイン」を策定し、8月4日に記者会見が行われました。

8月31日には地区住民を対象に報告会を実施。今後の推進体制についても協議され、名称を「小浜・岩間地区復興対策協議会」、事務所を勿来支所市民課と決定しました。

今後は協議会役員の選出等を行う予定です。

汐見が丘幼稚園 地震補強工事について

園舎の地震補強工事に伴い、隣接する汐見が丘小学校の校庭に設置された仮園舎に、8月末より移転となった汐見が丘幼稚園。来年3月末までの完了を目標に、工事が進められる予定です。

汐見小の校庭に設置された仮園舎

勿来と双葉の共生 コミュニティデザイン事業

8月24日、第8回コミュニティデザイン事業および「勿来まちあるき」実行委員会が行われました。

7月に実施した「プレまちあるき」での意見をもとに、ルートの決定に向け討議。また、チラシの作成についても話し合われました。

なお、「勿来まちあるき」は10月4日に開催される予定です。詳細は、勿来まちあるき実行委員会まで。

☎0246・77・1590

災害公営住宅 入居開始 佐糠第一・第二団地

8月28日、市災害公営住宅「佐糠第一団地・第二団地」の竣工式および鍵の引渡しが行われ、9月1日より入居が開始されました。

清水敏男市長から鍵を受け取る、入居者代表の松田達雄さん(写真右)

津波避難場所ガイド

●鬼越神社

●住所/錦町鬼越下63
●面積/2,000㎡
●海抜/19.8m

●砂山権現神社

●住所/勿来町関田御城前地内
●面積/66㎡
●海抜/9.8m

勿来ピックアップ

賑わいの声増やす、いわきの海

7月18日から8月18日までの32日間で行われた、勿来海水浴場および四倉海水浴場の海開き。今年の入り込み客数は合計58,944人に上り、そのうち勿来は31,805人に。震災後最多を記録しました。

海の家も設けられ、たくさんの人々で賑わった勿来海水浴場

震災後初　復活を遂げた夏祭り

8月21日、6年ぶりに開催された、常磐共同火力株式会社勿来発電所の「サマーフェスティバルin火力2015」。屋台の出店のほか、バンド演奏やフラダンスショー、お楽しみ抽選会も行われました。

社員ほか、小浜・岩間・佐糠地区の住民およそ1,000人が来場

いわき市 ふるさとだより 第52号
平成27年9月20日発行
●発行いわき市 ●編集:有限会社 いまじゅ ふるさとだより編集室
●編集室:〒973-8411 福島県いわき市小島町3丁目3-3 プリンセス・アイ1F
Tel&Fax:0246-26-5157
Mail:furusato@asally.co.jp http://www.furusatodayori.com

お知らせ 市総合防災訓練を実施しました

8月29、30日、市内11地区を対象に、土砂災害を想定した防災訓練が行われました。テーマは「自主防災組織を中心とした災害に強いまちづくりの推進」。

当日9時に避難勧告発令の市防災メールが配信され、FMいわきの緊急割込み放送も行われました。そのほか避難所となる学校や公民館では、防災講話や図上訓練等を実施。1,642名の市民が参加し、情報伝達から避難までの一連の流れを確認しました。

また、来年1月中旬には沿岸地域を対象とした津波避難訓練の実施も予定しています。

【問い合わせ】
市危機管理課災害対策係　☎0246-22-1242

磐城桜ヶ丘高校で行われた図上訓練の様子

体育館内には災害時用の備品が展示されました

❊プチ講座❊ Part.4
なるほど！いわきの歴史コーナー
駅名の改称「平駅」から「いわき駅」へ

平成6(1994)年12月、「平駅」は「いわき駅」へ生まれ変わりました。平成7年に行われる「ふくしま国体」や、平成8年の市制施行30周年を控え、「いわきの名を全国に発信する絶好の機会」という声が上がったことがきっかけとなりました。改称にあたっては、アンケート調査を実施。賛成が過半数を超えたこともあり改称に踏み切りました。

改称案としては「いわき平」という名称も検討されましたが、さまざまな意見を踏まえ、最終的に「いわき」と決まりました。駅名改称によって、知名度アップにつながり、観光誘客や経済活動、社会・文化交流に大きく貢献しました。

駅名改称記念式典の様子

駅標も「いわき」に変更

できごと PICK UP
応急仮設住宅や災害公営住宅ほか市内各地のイベントやできごとを紹介

8月22日 楽しい料理教室 中央台高久第一応急仮設住宅

「第44回生活講座料理教室」が「平友の会」の主催で開かれました。参加したのは、同住宅にお住まいの方や知人など、約10名のみなさん。

今回のメニューは、「ピタパン」と言われているパンに挟む具材で、茄子カレーとポテトサラダを作りました。野菜を切ったり、茹でたり、炒めたりと手分けして作業をし、初参加の方からは「みなさんと交流が図れてよかった、また参加したい」との感想もありました。料理が出来上がり、初めて食べる「ピタパン」に笑顔を見せるみなさん。会話も弾み、笑い声でいっぱいの料理教室になりました。

「おいしいね」と笑みを見せる参加者のみなさん

料理中は、みなさん真剣です

CHECK! 動画が見られます！

各地の復興工事進捗状況

9月12日、(都) 平磐城線が開通

〈小名浜港背後地整備事業〉
9月4日現在

震災復興土地区画整備事業
●面積　12.2ha
津波復興拠点整備事業
●面積　10.9ha
●主な公共施設
　都市計画道路平磐城線
　交通ターミナル
　ペデストリアンデッキ
●施行期間　平成23年～平成27年度（平成28年度以降も継続予定）

ふるさと伝言板

将来のライフプランを無料で個別アドバイス！

「住まいと暮らしの再建相談会」

◆日時　10月17(土)
　①10:00　②13:00　③15:00 (各90分程度)
◆場所　市文化センター
◆定員　9組 (各時間3組)

※お申し込みは開催日の3日前まで。
【予約・問い合わせ】　市ふるさと再生課　☎0246-22-7437

ふるさとだよりの記事が動画でも見られます！

①COCOAR アプリをダウンロード
iPhone/iPad「AppSTORE」から
Android「Google Play」から

②インストール後、アプリを起動するとスキャン画面になります。
③スマホをかざして画像をスキャンします。
④認識するとコンテンツが表示されます。

※画像に光が反射しないようにスキャンしてください！
注)ネット環境によって表示に時間がかかる場合があります。